

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
001	X	ディーゼルエンジンはスパークプラグでエンジンが掛ける。
002	O	ディーゼルエンジンが稼動している時、シリンダーの気体は空気だけである。
003	X	ディーゼルエンジンの燃料が不足し、エンジンが始動しない場合は燃料噴射ポンプを検査する。
004	O	ディーゼルエンジンは空気圧縮で高温になった空気に燃料を噴射し、着火させて燃焼する。
005	X	ディーゼルエンジンが高速回転する時、ノッキングが起こり易い。
006	X	ディーゼルエンジンの余熱栓を取り付ける目的は走行中においてディーゼルに容易に着火燃焼させる為である。
007	O	ディーゼルエンジンの燃料システムを正常に保つ為に、燃油中の不純物及び水分を取り除くフューエルフィルターを取り付けるべきである。
008	O	エアブレーキシステムのチューブで空気漏れし、空気圧が足りない時、スプリングブレーキに自動的にロックがかかり走行することが出来ない。
009	O	ディーゼルエンジンでインテークヒーターに空気を取り込むのは冷えたエンジンを始動させ易くするためである。
010	O	ディーゼルエンジンから黒煙が出たら、ノズル不良の可能性はある。
011	X	ディーゼルエンジンはキャブレターからシリンダーに燃料を供給される。
012	O	ディーゼルエンジンが逆回転した場合、エンジンをすぐに停止しなければならない。
013	O	ディーゼル車は過積載或いは急走行をすると、黒煙が出やすい。
014	O	ディーゼルエンジンが使用する燃料は潤滑効果も含まれている。
015	O	後輪にツインタイヤを装着する場合、同じ模様のタイヤを使用し、新旧タイヤを併用するならば、新しいタイヤは外側に使用すべきである。
016	O	タイヤの空気圧測定はタイヤが常温時に行わなければならない。
017	O	タイヤの空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、使用寿命が短くなり、パンクし易くなる。
018	O	タイヤはタイプと使用用途に合わせて用い、溝の深いタイヤはグリップ力が強まる。
019	X	キャブオーバーの定期検査、メンテナンスは簡単なのでキャブを半分傾斜すれば作業可能で、他の安全に配慮しなくともよい。

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
020	○	ブレーキライニングの磨耗はブレーキパッドにかかる時間が増え、ブレーキ機能が劣るので速やかに点検修理してもらう。
021	○	ディーゼル車が下り坂を走行している際、過剰なブレーキの使用は、ブレーキが効かなくなるので適切なギアと排気ブレーキを組み合わせるべきである。
022	○	下り坂の時には低速ギアと排気ブレーキを使用し、エンジンブレーキを使用する時にはエンジンの最高回転速度の制限に注意する必要がある。
023	○	エアブレーキシステム搭載の車では、連続してブレーキペダルを踏むと、ブレーキに良くないばかりでなく、エアタンクの空気を無駄にし制動機能を下げることとなる。
024	○	大型車のエアータンクは、毎日乗り終えた後に内部に溜まった水を取り除く。
025	×	エアコンプレッサーの空気圧の充填時間が普段より長い場合、気圧が足りていれば気にしなくても良い。
026	×	ブレーキ圧力の警告ランプが消えず、ブザーが鳴り止まない場合でも、低速走行であれば危険ではない。
027	○	エアブレーキを装備した車両を移動しなければならない時にエンジンが始動しないなどの場合は、スプリングブレーキに空気充填すれば簡単にブレーキをはずすことができる。
028	×	ブレーキ時に車輪がロックされてしまったら、ブレーキの性能は上がるが、車は方向操作の性能を失うことになる。
029	×	燃費の節約、エンジンの負荷を減らす為、下り坂を走行中にニュートラル又はクラッチを切っても良い。
030	○	フロントタイヤのアライメントが整っていないと運転が困難になる他、タイヤの磨耗も増加する。
031	○	オートマチック車が故障で牽引が必要な際、デファレンシャルギアのドライブシャフトを外さなければならない、でなければトランスミッションが潤滑不良を起こし損傷する。
032	○	ギアを前進から後進に入れるには、車が完全に停止してから操作する。
033	○	大型車のオートマチックトランスミッションは小型車と似ており、道路事情、交通状況によって速度を確かめギアを入れる。
034	○	大型車のオートマチックトランスミッションと小型車は同じで、ニュートラルで坂道を下るのは厳禁であり、さもなければギアを損壊する。

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
035	○	オートマチック車のシフトチェンジでは、ある特定のトランスミッションはボタンを押さなければならず、誤作動防止の為平常はボタンを押す習慣をつけなくとも良いが、特定のギアの位置にはボタンを押すようになっている。
036	○	パワーステアリングは油圧サポートが失われても、車は走行が可能であるが、ハンドルは重くなる。
037	○	エアブレーキシステムのシリンダー管、エアチューブ管等に漏れがあり、気圧不足になると、スプリングブレーキは自動的にロックされ走行出来なくなる。
038	○	触媒コンバーターの取り付けがある車両は火災が起こらないように、運転後は草地や可燃性のある場所に置いてはいけない。
039	×	冷却システムはリザーブタンクが満水であれば、メイン水タンクは検査しなくとも問題はない。
040	×	エンジン冷却水には不凍剤或いは防錆剤が含まれており、取替えの必要はない。
041	○	新車には慣らし運転期間があり、高速走行や急ブレーキは避けなければならない。
042	○	触媒コンバーターのある車は無鉛ガソリンを使用しなければならない。
043	○	急発進は燃費の無駄であり、排気ガス汚染物を増加させる。
044	○	電子制御燃料噴射装置を装備した車が燃料タンクを空にした時、電子制御燃料ポンプを傷め易くなる。
045	○	ターボチャージャーはエンジンオイルにより潤滑にされている。
046	○	コンピュータ制御のガソリンエンジン搭載の車は空気を取り込む口が低く、水中走行における深さは車輪の半分を超えてはならない。
047	○	エンジン状況が良好であるが、フューエルフィルターは定期的に取り替えが必要である。
048	×	触媒コンバーターのガソリン車は、プレミアムガソリンを使用しても良い。
049	○	タイミングベルトは切れると、ひどい場合はエンジン損壊につながるので、定期的に取り替えなければならない。
050	○	オイルフィルターは車の使用説明書の規定に従い、定期的に変更しなければならない。
051	×	エンジンオイルを検査する時、車は平地に停車させエンジンが回っている時に検査する。

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
052	○	水が溜まっている路面において車を走行させる時はエンジンがひどく損壊するかもしれないので、無理して走行しない。
053	×	エンジンが始動中に、冷却システムの予備タンクの液面が下がっていくのは正常である。
054	○	エンジン冷却システムにはサーモスタットがあり、エンジンの暖気の時間を早めることができる。
055	○	エンジンがオーバーヒートしたら速やかに停車するが、火傷の恐れがあるので、高温状態ではラジエーターキャップを開けてはいけない。
056	○	エンジンオイルが乳白色に変わったら、オイルが冷却水に混ざった可能性があるのでメーカーで修理点検が必要になる。
057	×	エンジンの動力を高める為に、消音機を外しても良い。
058	×	エンジン冷却システムのサーモスタットを外せば、燃費を節約できる。
059	○	エアフィルターに酷い汚れがあり未交換であれば燃費が悪く、馬力低下などの現象が見られる。
060	○	低温でのエンジン始動時に、マフラーに水滴がつくのは正常である。
061	×	エンジン冷却システムのサーモスタットを外してもエンジンの寿命には影響を与えない。
062	○	エンジンオイルが多すぎると、スパークプラグにカーボンが溜まり、燃費や馬力の低下が起こる。
063	×	車の走行速度が速ければ速いほど燃費が良く、エンジン回転数は無制限に上げてても良い。
064	×	ガソリン車が黒煙を出しているのは正常である。
065	○	エンジンの温度がまだ上がっていないうちに高速回転させると寿命が縮まる
066	○	エンジンは低温の時の方が正常温度の時より燃費が悪い
067	○	触媒転換器を取り付ける目的は一酸化炭素、炭化水素、窒素化合物の排出量を抑えて空気汚染を減少させるためである
068	○	定期的にエンジンオイルを交換するとエンジンの寿命を延ばすことができる
069	○	水冷式エンジンは冷却水がないとエンジンが始動できない
070	×	燃費が悪くなるのはエンジンの部品の関係で、運転行為とは関係ない
071	×	冷却水の量が足りていればエンジンは過熱し過ぎない

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
072	○	エンジンを掛けた時に青白い煙が出たら、それはオイルが燃えていることを示す
073	○	ブレーキを掛けた時に変な音がするのはブレーキ系統に問題がある。停車して検査すべきである
074	×	ブレーキを掛けた時に変な音がするのは自然なことだから検査する必要はない
075	×	サイドブレーキを掛けたままでも車両の始動には影響がない
076	○	停車中にサイドブレーキを引いておくと車体が滑るのを防ぐことができる
077	×	サイドブレーキと足踏みブレーキは同時に併用できない
078	○	ABSブレーキシステムを設置した車両は緊急ブレーキをかけた時に車両の走行方向をコントロールしやすい
079	×	走行中に前方に障害物を発見してからブレーキを掛けて車両が完全に停止するまでの距離を反応距離という
080	○	ブレーキ板を踏んだ時に弾力性がないのはブレーキオイル管に空気が混入したかオイル漏れの可能性がある。安全のためにすぐに停車して検査すべきである。
081	○	強くブレーキを掛けすぎるとタイヤが磨滅し、車両が横転しやすい
082	×	ブレーキポンプのオイルが不足していると空気が進入しない
083	○	ブレーキポンプの通気孔はいつもきれいにしておくべきだ
084	○	ブレーキ板が緩んでいるのにブレーキが効くのはブレーキ版にあそびの部分がないからだ
085	○	タイヤは一定期間が過ぎたら互いに取り付け換えてタイヤの寿命を延ばすべきだ
086	×	タイヤにエンジンオイルやグリースが粘着しても害はない
087	×	長時間運転してタイヤが過熱しすぎたら冷水をかけて冷やす
088	○	タイヤカバーは走行に欠かせない工具である
089	×	積荷重量が超過してもハンドルの機能には影響がない
090	○	カーブする時、変速箱は内輪と外輪を異なる速度に調整できる
091	○	ギアチェンジ車両はクラッチを踏む時、エンジンと伝動装置がつながっていないので、エンジンの力が伝動装置に伝わらない
092	○	変速機は大小が異なる歯車を利用し、互いに組み合わせさせて速度を変える

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
093	○	変速機はローギアの時、速度は遅いが発進力は強い
094	○	変速機の外側はきれいに保ち熱をよく発散できるようにする
095	○	ハンドルが重くなったら、それはタイヤの圧力不足かパワーステアリン系統が故障か駆動ベルトが緩んだかのいずれかである
096	×	パワーステアリング車両はタイヤの向きを変える力とエンジンを切ったかどうかは関連がない
097	○	タイヤの取り付けバランスが悪いとハンドルが揺れて高速走行中に車体がぶれる
098	×	前進ギアからバックギア或いはバックギアから前進ギアに入れ替える時は必ず停車しなくてもいい
099	×	タイヤの圧力が高いほど路面との摩擦も大きい
100	○	155SR12の表示があるタイヤのRは、ラジアルタイヤであることを示す
101	×	オイルディスクブレーキも太鼓式ブレーキもともにブレーキライニングの間隔を調整する必要がある
102	×	ブレーキオイルを節約するために使用済みのオイルを重複して利用できる
103	×	異なるメーカー、規格のブレーキオイルを混ぜてもブレーキ系統の正常な運用ができる
104	×	泥沼を通過する時は高速ギアで通り抜けなければならない
105	×	オートマチック車はエンジンを掛ける時、必ずギアをDの位置にしないと始動しない
106	○	オートマチック車は走行を開始する時ブレーキ版を踏まないとギアチェンジができず、それによって暴走を回避できる
107	○	車両をレッカー車で牽引する時、変速機など伝動部品が損傷を受けないように駆動タイヤは路面から離して牽引する
108	×	自動変速機のオイルを検査したら焦げ臭い臭いがして、色が黒或いは白色乳状になっているのは正常である
109	×	自動変速機のオイル(ATF)の正常な色は青色をしている
110	○	オートマチック車は走行中にエンジンが空回りして速度が上がらない時は変速機が故障しているから修理すべきである
111	○	オートマチック車が坂道を走行するときはローギアを利用しなくてはならない
112	×	オートマチック車が坂道を上る時はDギアを利用しなくてはならない

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
113	X	パワーステアリング系統にオイル漏れがあると、ハンドルは完全に使用不能になる
114	X	ABSブレーキシステムのある車両はブレーキの性能が優れているので、安全な車間距離を取らなくてもいい
115	O	ABSブレーキシステムのある車両は走行中に文字盤の[ABS]ライトが点滅したら、それは故障を示すサイレンだから、修理する必要がある
116	X	同じ車輪軸には異なる模様と規格のタイヤを使用することができる
117	O	パワーステアリングハンドルが甲高い音を発した時は駆動ベルトが緩んでいる可能性がある
118	O	走行中にクラッチをよく踏むとクラッチ片が破損しやすい
119	X	バッテリーは放電した後に充電しないとバッテリー液の比重が上がる
120	O	エンジンをかけても始動しなかったり、回転速度が遅いのはバッテリーか発動モーターの故障の可能性がある
121	X	エンジンを始動できなかった時は、エンジンが完全に静止するのを待たずにすぐに発動モーターを回転させたほうが始動させやすい
122	X	ヒューズが焼けてしまったら銅線で代用でき、今後ヒューズを交換する手間が省ける
123	O	タバコ点火装置は任意に増やすと電気系統に危険が生じる
124	O	配電盤は高圧電気を一定の発火順序でそれぞれのプラグに送る機能がある
125	X	車両の発動モーターは発電用である
126	O	プラグは高圧電を利用して発火する
127	O	バッテリー液が不足すると電極版が露出してバッテリーの寿命が縮まる
128	X	バッテリーの蓋の上の通気孔はバッテリー液を継ぎ足す時に使用するもので、ふさいではない
129	X	プラグに流れる電流は低圧電流である
130	O	エンジンのキーを切ってもエンジンがすぐ止まらないのはエンジンの温度が加熱しすぎているからだ
131	O	バッテリーのネジの上に少量のグリスを塗ると腐蝕を防止できる
132	O	発動モーターを使用してエンジンをかける時、10秒から15秒を超えてはならない。超えるとバッテリーと発動モーターが損傷しやすい

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
133	X	高圧線コイルは高圧電気を低圧電気に換えるものである
134	O	バッテリー液は硫酸を含んでいるので、車上や体にかけてはならない
135	O	バッテリー液が足りない時は蒸留水を加えるべきである
136	O	エンジンが始動し、適度な温度に達した時、電動式冷却ファンが自動的に作動し熱を発散させる
137	O	エンジンが始動した後、各部分の電気は発電機から供給される
138	X	エンジン始動中に充電指示灯 が消えたら、バッテリーが放電していることを意味する
139	O	バッテリーの電気量が不足して、別の車両からバッテリー供給の援助を受ける時、+極は必ず+極に、-極は故障した車両のアースが良好な場所につなげる
140	O	通常のリチウムイオンバッテリーの電気容量の表示方式はアンペアアワーである
141	X	常温のエンジンを始動させると電動式冷却ファンが回転し始めて絶えず送風して冷却する
142	O	エンジンの温度が高くなると、温度計の針はHを指す
143	X	バッテリーの電気がなくなったり不足しても高圧電には影響しない
144	O	高圧線が破損して伝導不良になり漏電した時は全部新しい物に換えなくてはならない
145	X	エンジンを始動させる時の電源は発電機から供給される
146	X	バッテリー液が不足すると電極版が露出するが、引き続いて使用してもバッテリーの寿命に影響はない
147	O	プラグの電極部分が赤紫色をしていたら正常燃焼していることを示す
148	O	車上にいくつも電気消費が多い電気器具を設置すると燃費が悪くなる
149	O	バッテリーを交換する時、プラスとマイナスを間違えて接続すると車上の電気器具を損傷する
150	O	クラクションが鳴り止まない時は、クラクションのヒューズを取り外してもいい
151	X	オートマチック車はバッテリーの電力が不足なくてエンジンを始動できない時、車両を推してエンジンを始動させることができる
152	O	エンジンが始動し始めた後も始動モーターのキーをかけたままにしていると始動モーターが損傷しやすい

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
153	○	エンジンが始動し始めて発電機が発電したりバッテリーが充電をしている時は、この指示灯は消える
154	○	バッテリー液の容量を適度な量に保つと、バッテリーの寿命を延ばすことができる
155	×	オートマチック車はギアをN或いはP以外の位置にしてもエンジンを始動させられる
156	×	エンジンが始動中に電動式冷却ファンが作動しない時は手で動かすことができる
157	○	防犯シークレットナンバーのある音響設備はバッテリーコードを抜く前にそのナンバーを確認しておかないと音響設備が使えなくなる
158	×	夜間に暗い所でバッテリー液を検査する時にライターの火を近づけて照明器具とすることができる
159	○	プラグを検査したら発火部分に黒い炭が溜まっていたら、高圧電の点火力が弱いか混合気体が濃すぎるかのどちらかである
160	○	ヘッドライトの台座を動かした後はライトの光束をもう一度調整しなおす必要がある
161	○	ハロゲンライトは手で触ると放熱に影響して寿命を縮めることになる
162	×	車のバッテリーを取り外すときは必ず先に＋極のコードから抜くべきだ
163	×	冷却コンプレッサー内の冷凍オイルは一般のエンジンオイルを使用できる
164	×	4WDとは四輪駆動車のことである
165	○	ディーゼルエンジンは重い荷物を積載して加速する時に黒煙を最も多く排出する
166	○	車両の駆動方式は前輪、後輪、四輪駆動の3種類に分類できる
167	○	タイヤの取り付け角度を調整する主な目的は、タイヤを平均的に磨耗させて寿命を延ばすことにある
168	○	オイルブレーキの長所は発熱が早くてブレーキの効果がいいことである
169	○	エンジン始動中はバッテリーのコードを抜いてはならない
170	○	変速機のオイル量は多すぎても少なすぎても変速機を損傷させる。多すぎる場合は部品の回転抵抗力が強すぎる或いはオイルの中に泡が発生して変質し部品が異常に磨耗する。だから変速機を検査する時は、正確にその量を測らなくてはならない

機械常識是非題

【日文】

題號	答案	題 目
171	○	定期的にエンジンのガソリン供給状態を調整し、ガソリンの使用効率を上げ、随時空気フィルター、プラグと気化器に注意し、適時交換する
172	○	ブレーキ板に弾力性が失われるとブレーキ版が引っかかって元の位置に戻せなくなる
173	○	ヘッドライトの台座を固定する部品が衝突で変形した時は、いちばんいいのはその部品ごと新しい物に換えてからヘッドライトを取り付けることである。その時、照明角度の調整をしなければならない
174	○	大部分のオートマチック車の自動変速機のオイル(ATF)の表面の高さを検査する時は、エンジンが低速回転している状態の時に行う
175	X	ギアチェンジ車もオートマチック車もギアチェンジ車両も変速機の内部構造と部品は完全に同じものである